

原 著

イヌバラ法による福祉科高校生に対する  
介護コミュニケーション技術の訓練効果

大 辻 隆 夫\* 塩 川 真 理\*\* 上 川 貴 子\*\*\*  
平 塚 信 子\*\*\*\* 塚 原 昌 代\*\*\*\*\*

Training Effect of Communication Technique in Care Work for High School Student  
belonging to the Welfare Course via Dog and Rose Role Playing Technique

Abstract

Communication technique as a technique of care workers is an important subject as well as respect for human rights and support for independence in care work education by reexamination of the curriculum in 1999. It is because respect for human rights, support for independence and the establishment of community welfare have become more important ideas of social welfare than before in general, and elder and child abuse has become a social problem, in addition to the present low recognition of communication technique in the area of care welfare. The new curriculum started in 2000 and many trials regarding educational content and method have been made since then, but it is difficult to say that it is fully established.

As a trial solution for this problem, we introduced and trained a basic counseling technique to 72 high school welfare course students and 29 high school welfare club members, who plan to be future care workers. This basic technique was acceptance based on listening and empathy. The training for acceptance technique was accomplished through Dog and Rose Role Playing Technique. (Self-symbolic Counselor Training Technique) This role playing technique is a new training method for counselors.

The purpose of this study has: 1. to introduce and elucidate Dog and Rose Role Playing Technique's method, content and process to high school students, and 2. to examine the training effect of this technique.

The results proved the following:

1. High school students were motivated to learn acceptance technique as a communication technique through the use of Dog and Rose Role Playing Technique.
2. They experientially understood the significance of being accepted and its technique.
3. They acquired a basic acceptance technique and were able to apply it during the training

\* 京都女子大学家政学部助教授 (児童教育学)  
Takao Otsuji

\*\* 大阪府教育委員会子どもサポートグループ  
S C (臨床心理士)  
Mari Shiokawa

\*\*\* 大阪市家庭児童相談室 (家庭相談員)  
Takako Uekawa

\*\*\*\* 横浜市教育委員会指導課 S C (臨床心理士)  
Nobuko Hiratsuka

\*\*\*\*\* 埼玉県立不動岡誠和高等学校 (教諭)  
Masayo Tsukahara

process.

4. They successfully communicated with elderly people using the acquired acceptance technique.

In conclusion, it is clear that Dog and Rose Role Playing Technique contributes to the acquisition and improvement of communication technique for high school students belonging to welfare course in care work training.

## I はじめに

### 1. 介護福祉における介護コミュニケーション技術

介護福祉における介護コミュニケーション技術は、1987年に介護福祉士資格が国家資格として制度化されて以来、介護福祉士養成課程における授業科目として設定され今日に至っている。その第1の理由は、介護におけるコミュニケーションの成否が介護の質そのものを左右する(水野, 1989)からに他ならない。この意味で、介護コミュニケーション技術は、介護福祉における介護技術として極めて重要な位置を占めている。さらに、1999年の厚生労働省による介護福祉士資格制度の見直しでは、期待される介護福祉士像の一つに「感性豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、意思疎通をうまく行って介護を必要とする人との信頼関係を築くことができること」とあり、具体的には、介護福祉士教育養成施設における教育課程について、「人の心を理解し意思疎通がうまく行え、利用者から満足される介護が行えるようにコミュニケーションに関する内容を介護技術等において強化すること」が強調されている。このことから明らかなように、コミュニケーション技術が、人権尊重及び自立支援と並び介護福祉教育における重点教育科目として位置づけられたことが理解できよう。これは、従来の介護福祉領域におけるコミュニケーション技術に対する認識の低さへの反省もさることながら、人権尊重、自立支援、及び地域福祉の確立が社会福祉の理念としていっそう重要となっていること、また高齢者・児童虐待がますます深刻化し社会問題になってきていることによるものと考えられている。

### 2. 高校福祉科教育における介護コミュニケーション技術

将来の介護従事者を育てる高校福祉科教育は、前段階の調査期間を経て、1999年に専門教育に関する教科「福祉」が新設されたことに始まる。教科「福祉」新設の趣旨は、高等学校学習指導要領の解説：福祉編(文部省, 2000)において、来るべき超高齢化社会においては、高齢者を思いやる気持ちやいたわる気持ちなど、豊かな人間性を育む教育がいっそう重要となると同時に、これら高齢者、とりわけ要介護高齢者の自立を支援する能力や技術を持った人材を育成する必要性も高まっていることが指摘されている。

さらに、文部科学省検定済教科書「基礎介護」(一番ヶ瀬ら, 2003)において、介護の原則として、要介護者と介護者との信頼関係の構築が重要であり、そのためには、受容、共感、傾聴、洞察、秘密保持の態度で、コミュニケーションをはかっていく必要があると述べられているが、しかし、その技術をいかに修得させるかの学習方法については触れられていない。

### 3. 介護コミュニケーション技術の学習方法

高崎(1999)は介護コミュニケーション技術に関する学習方法として3つの方法を提示している。それは、①ロールプレイング(役割演技)、②プロセスレコード、③ケースカンファレンスである。

例えば本稿と関連のある介護コミュニケーション技術について言うならば、この学習で用いられるロールプレイングでは、実際の介護場面をシュミレートし、介護者(介護士、家族、あるいは周囲の人々)及び要介護者の役割を演じる者によって構成される学習構造場面が主流(高崎, 1999, 杉山, 2000, 水谷, 2000, 橋本, 2003)である。この学習方法による効果につい

では、コミュニケーションの大切さを理解することができた例（遠藤，2000）や，三重苦の利用者及び介護者の役割を演じることで個別性を実感し個々に応じた援助の必要性を理解した例（今泉ら，2003）等が報告されている。さらに，杉本（2002）は，コミュニケーション能力の教育として a. 未体験からのイメージづくり， b. 共感的態度の育成， c. 成功体験の蓄積が必要であると主張している。具体的には，a については，介護の必要な高齢者について現実により近いイメージを学生に抱かせ，講義による知識と現実とのギャップをいかに縮めるかが課題であり，b については，介護現場をイメージできない学生に高齢者への共感的理解を求めるのは難しいが，理解できないことを理解しようとする態度の育成が大切であり，さらに c については，失敗経験が学生の高齢者への声かけを抑制しているため，これを克服する経験が必要だと論じている。つまり，これらの学習方法はいずれも学習者の要介護者理解を促進し，特に要介護者の立場や心理を想像しやすくさせたことに寄与しているものと考えられる。しかし，これらの学習方法は，学習者の要介護者理解の一助となっているが，介護コミュニケーション技術そのものの修得や更なる技術的な向上を促進することを目的としたものではない。

これに関して，高金ら（2000）が，コミュニケーション技法で「受容」と「傾聴」の大切さを，講義を通して学ばせているが，介護の場で傾聴できている学生が少なく，「受容」と「傾聴」を体験学習する機会が少ないことを指摘していることは興味深い。さらに山崎（2002）は，受容能力の一つに介護者自身の自立をあげており，これまでの教育において自己点検・自己理解の学習が不足していたことを認めている。このことから介護コミュニケーション技術の学習において，カウンセリング技術における傾聴・共感を軸とした受容技術の修得を目的とした教育・訓練の実施・検討の余地が，残されているものと予想される。先に少し述べたように，コミュニケーション技術の教育内容及びその方法については諸種の試みがなされているとは言え，まだ十分に確立されているとは言い難い現状であ

ると思われる。

加えて介護を必要とする人々に対する虐待（abuse），不適切なケア（maltreatment），及び介護者あるいは本人自身によるネグレクト（neglect and self-neglect）などの諸問題は，介護福祉臨床における臨床心理学的アプローチ導入の必要性（大辻ら，2003 b）を指摘するものであり，介護コミュニケーション技術の学習において，介護福祉士にもカウンセリング技術の獲得が必要であることを示唆するものと言えよう。

#### 4. 福祉科高校生に対するカウンセリング技術の訓練方法としてのイヌバラ法導入の試み

そこで，この問題の解決のための試みとして，今回筆者らは介護福祉士予備軍である高校福祉科在籍者及びボランティアクラブ所属者に対して，カウンセリングの基本技法である傾聴と共感を軸とした受容の技術獲得を教育訓練することにし，訓練方法として，新しいカウンセラー訓練方法であるイヌバラ法（Dog and Rose Role Playing Technique）（大辻，1993，2000，2003 a，2004）を導入した。

イヌバラ法は，クライアント役が動物の犬か花のバラ等の人間以外の対象の立場に立ってその悩みを訴えるという役割演技をするところに，独自の構造とプロセスを持つロールプレイングによるカウンセリング技術訓練法である。従来の人間同士の役割構造におけるロールプレイング法に比べて，人間以外の役割を演じることで自分がクライアント役の被訓練者にとって自己防衛的な機能を果たし，そのことでむしろ彼らの役割演技への自己防衛的な抵抗感を減少させ，よりいっそう役割演技に動機付けることが可能となった。さらに，カウンセラー役の被訓練者はクライアント役の悩みを安易にわかった気にならずに，カウンセリングの基本技法の傾聴や共感といった受容的対応により焦点化されて学ぶことが可能となった。

また，イヌバラ法における訓練場面構造においては，クライアント役の被訓練者の意識の有無にかかわらず，クライアント役が演じる役割に，被訓練者の現在・過去・未来における意識・無意識の心理力動や心理構造が投影され，自己

象徴的過程が明確になる（大辻，2000，2003 a，2004）。つまり，被訓練者自身の現実生活場面とイヌバラ法における自己象徴過程を照合させることによって，技術修得のみならず被訓練者の自己理解が進むことも期待できる。

本稿の目的は，まず第1に高校生に対するイヌバラ法による受容技術の訓練方法や内容及び過程を明らかにし，紹介することであり，また第2にその訓練効果についても検討を試みることにある。

## II 方法

### 1. 対象

イヌバラ法によるカウンセリング実習に参加した，福祉科に在籍する高校生72名及び同校ボランティアクラブに所属する高校生29名を対象とした。また，実習に参加した福祉科担当教諭2名及び教科実習助手2名にもアンケート調査に協力していただいた。

### 2. 手続

実習はX年6月と10月に，授業及びボランティアクラブの活動としておこなわれた。

- ①実習過程は，開始から終了に至るまですべて録音された。この録音から生徒の発言及びロールプレイング事例をすべて逐語録化した。また，実習参加者自身の感想も用紙に記入してもらった。
- ②実習終了後，授業に参加した生徒に表1に示すアンケートを実施し実習の感想を求めた（有効回答数69名）。また担当教諭にも自由記述式で同様に実習の感想を尋ねた。

表1：生徒へのアンケート

I	今回のスペシャリスト授業はいかがでしたか？ ①とても楽しかった ②楽しかった ③普通 ④つまらなかった ⑤何とも思わない ⑥その他
II	次回もイヌバラ法をやってみたいと思いますか？ ①やりたい ②やりたくない ③どちらともいえない
III	今回のスペシャリスト授業での感想を自由に書いてください。（自由記述）

- ③さらに追跡調査として，施設での見学実習時に今回のイヌバラ法によるカウンセリング実習が効果的であったかどうかを尋ねるヒアリングを，無作為に抽出した生徒3名におこなった。

## III 結果と考察

### 結果1とその考察 イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習の構造と方法

本研究の第1の目的は，福祉科高校生に対するイヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習の方法と過程について明示し，検討することにある。

今回研究対象とした実習は，①高等学校福祉科の1年次を対象に開講されている「基礎介護」授業の一環としておこなわれた実習（50分×2回），及び②同校ボランティアクラブ活動の一環としておこなわれた実習（50分×2回），の2つである。

まず，今回のイヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習の構造（表2）と，次に方法（表3）を示す。表2においては，実習の種別，所要時間，対象及びスタッフを，表3においては実習方法と全体のすすめ方を提示する。

表2：イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習の構造

実習種別	対 象	実習スタッフ	
授業における実習 50分×2回	福祉科 1年生 (72名)	講 師	臨床心理士（1名）
		指導助手	臨床心理士（1名）
		補 助	教 諭（2名） 実習助手（2名）
ボランティア クラブに おける実習 50分×2回	ボランティア クラブ部員 1年生(9名) 2年生(16名) 3年生(4名)	講 師	臨床心理士（1名）
		指導助手	教 諭（1名）

\* 1年生は授業においても実習を受けている。

表3：イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習の方法

I	資料配布（実習開始前） 資料1 ロールプレイングによるカウンセリングの基本技法の体験学習 資料2 イヌバラ法の訓練指標
---	---

- 資料3 イヌバラ法事例タイトル集  
 資料4 カウンセリング実習記録用紙  
 上記資料は大辻（2002）に所収

- II 福祉科教諭による導入（10分）  
 本時の目標と流れの説明，及び講師の紹介
- III 臨床心理士による講義（10分）  
 カウンセリングの意義，技法，及びイヌバラ法の実施方法
- IV 実習導入（20分）
- 1 グルーピング  
 1班8～10名の班員構成
  - 2 デモンストレーション  
 スタッフによる模範演技として  
 イヌバラ法＜5分法＞2例実施
  - 3 質疑応答
  - 4 ペアリング  
 2人1組のペアを作る
  - 5 役割決定  
 ペアでカウンセラー役とクライアント役を決める
  - 6 記録用紙記入  
 記録用紙にカウンセラー役とクライアント役のそれぞれの名前を記入
- V イヌバラ法＜5分法＞実習
- 1 ロールプレイング実施（1～5回\*）  
 毎回のロールプレイング終了後に感想を話し合い，クライアント役の演じた事例のタイトルを決定し，感想とともに記録用紙に記入する  
 \*実習回数は各ペアのペースによって異なる
  - 2 臨床心理士による解説  
 「歯痛に悩むイヌの事例」（資料2所収）の紹介
  - 3 最終回のロールプレイング実施
  - 4 質疑応答
- VI 講師による実習のまとめ

ロールプレイングの練習時間を確保するために，資料は事前に配布した。生徒によっては，実習開始前に資料に目を通すものもいた。ロールプレイングの練習中は，講師らスタッフが各グループを巡回し，適宜指導や介入を行った。

ここで提示した構造と方法は，高校生を対象とした場合のイヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習に際しての試みとしての実習方法論の一例であり，またイヌバラ法が最終に目指す自己象徴過程を期待するものではない。ここでの目標は，高校生を対象として受容における

傾聴と共感の技術について訓練することである。

## 結果2とその考察 イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習過程におけるロールプレイング事例

本研究の第2の目的は，高校生に対するイヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習の訓練効果を検討することにある。結果2では，この実習の訓練過程を前半・中半・後半の三過程に分類し，それぞれの過程の特徴を示す生徒の感想における発言，及びロールプレイング事例を抽出，提示し検討する。

### ①イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習・前半

本実習過程前半，すなわち実習開始～初回のロールプレイング終了段階までの生徒の感想における発言を内容ごとに分類しタイトルを付したものを表4に示す。

表4：イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習過程：前半における生徒の発言

1. 笑う：演じることにまつわる抵抗
  - a. 笑ってしまった。(女子)
  - b. すごい笑っちゃうんですけど。(女子)
  - c. いきなり面白かったよ。(男子)
  - d. カウンセラー，笑わさないでよ。(男子)
2. クライアント役を演じることに対する抵抗
  - a. クライアント役は人間以外じゃないとだめ？(女子)
  - b. クライアント役が決まらない。(女子)
  - c. 何の役にするか悩む。(女子)
3. 受容の困難さ
  - a. あいづちのこつがつかめない。(女子)
  - b. あいづちしてても聴いてない。(女子)
4. タイトルのつけ方がわからない
  - a. ビーマン，食べてもらいたい，ビーマン，悩む。(女子)
  - b. 踏まれる，っていうタイトルでもいいんですか。(女子)
  - c. なんて書いたらいいのやろうね，(タイトルは?) (女子)
  - d. 売れない花ってタイトル書いたけど，悩みがわからない。(女子)
5. 実習手順：感想の取り扱い方がわからない
  - a. 感想かけた？(女子)
  - b. 感想には何書くか。(女子)
  - c. やって見た感想は面白かったです。(男子)

- d. 感想短くていいのか。(男子)  
 e. 始めていいか(感想を書かない)。(女子)

次に、前半の実習過程の特徴、つまり、沈黙や笑いとして表現された演技抵抗を示すロールプレイング事例、3例(表5,6,7)を提示する。これら3事例は、いずれも生徒がカウンセラー役やクライアント役を初めて演じたロールプレイング事例である。

表5：事例A 笑いによる中断事例

人間に踏まれて大変な事例  
 (カウンセラー役：Co, クライアント役：Cl)  
 Cl : 私は、あの一、人間に踏まれてて一。あの一、なんか、なんですけど。徐々に、扱、い、されちゃってです、ね、大変なんですよ一<笑い>。  
 Co : <笑い>

事例Aの概要：

イヌバラ法のクライアント役ルールでは、「私は～(人間以外の対象名；<例>犬)です」と言ってから悩みを訴えることになっているが、このクライアント役は何の役割演技をするかを告げずに、いきなり人間に踏まれたことによる悩みを訴え始め、笑い出す。聴き手のカウンセラー役もそれに巻き込まれて笑う。両者が笑いのために演技を継続できなくなり中断する。

表6：事例B 笑いによる中断事例

みんなが触ってくれないことに悩む事例  
 (カウンセラー役：Co, クライアント役：Cl)  
 Cl : あれなんです、チクチクしてみんな触ってくれないんです、逃げちゃうんですよ。<笑い>  
 Co : とげが。  
 Cl : とげがないようにしてほしいんですけど。とげはあるんですけど。ごっつうやばいんですけどね。<笑い>へへへ。<笑い>  
 Co : ああそうですか。ほかに困ったことはない。

事例Bの概要：

このクライアント役も事例Aと同様に、何の役割演技をするかを言わずにいきなり笑い出す。カウンセラー役が「とげが。」と明確化してもクライアント役は最終的に笑い出し、中断する。カウンセラー役はクライアント役

の笑いに巻き込まれないようにすることに気をとられて受容できなくなる。

表7：事例C 沈黙と笑いによる中断事例

散歩に疲れることに悩む犬の事例  
 (カウンセラー役：Co, クライアント役：犬)  
 Co<sub>1</sub> : こんにちは。  
 犬<sub>1</sub> : こんにちは  
 Co<sub>2</sub> : 今日は、どういう悩みですか。  
 犬<sub>2</sub> : えっと私は、犬なんですけど。最近、えーっと飼い主さんに散歩に連れてってもらおうと、すごく疲れてしまうんですよ(あ一)。<沈黙4秒>  
 どうーしたらいいのかわからないんで(あ一)。  
 Co<sub>3</sub> : 散歩、散、散歩に連れてってもらおうと、どのあたりで疲れちゃうんですか。  
 犬<sub>3</sub> : うーん。  
 Co<sub>4</sub> : 何か、何、何か、コースとかあるとかですか。  
 犬<sub>4</sub> : コースの真ん中へんぐらいで(うーん)、もう疲れてしまっぺ。  
 Co<sub>5</sub> : 今までは、その、今まで、散歩の道、歩いて一帰ってきて、も、あんまり疲れなかったんですか。<沈黙5秒>  
 その原因とか分かりますか。自分で。  
 犬<sub>5</sub> : <沈黙6秒>わからない。  
 Co<sub>6</sub> : うん(うん)わからない。疲れると一どういふのは、体、に、の症状で、どういふ感じ。  
 犬<sub>6</sub> : だるくなっちゃう。  
 Co<sub>7</sub> : だるくなっちゃう。<沈黙6秒>  
 じゃあ、疲れちゃうってことは、あんまり散歩が楽しくなってきたっていう。<沈黙17秒>  
 最近、散歩、走ったりとかはしないですか。  
 犬<sub>7</sub> : 走ったりとかは、ないです、ね。  
 Co<sub>8</sub> : 散歩でなんか、こう、通りをこう歩いてくるだけですか。何か、どっか目的地に行ったりとかはするんですか。  
 犬<sub>8</sub> : 公園に行ったりとかは、するんですけど。八分のあたりになると疲れた状態になって、で一。  
 Co<sub>9</sub> : あんまり公園行っても、前よりは遊べなくなった。<沈黙5秒>  
 飼い主さんは、どうですか。  
 犬<sub>9</sub> : 気づいてない。  
 Co<sub>10</sub> : 気づいてない。<沈黙2秒>  
 タメ語になってます。<笑い>(Co役は笑いながら講師に向かって言う)<沈黙10秒>  
 一応、まあ、散歩は、いついつ何時頃に行くんですか。  
 犬<sub>10</sub> : と一、一日2回で朝と夕方。どっちも疲れちゃう。  
 Co<sub>11</sub> : 飼い主さんは、気づいてないって事で、飼い主さんは自分のペースで、こう、どんどん行っちゃうっていうか。それで、余計疲れてしまっぺ。  
 <沈黙10秒>  
 散歩してない普段は、元気なんですか。  
 犬<sub>11</sub> : そうですね。散歩する時だけ、歩くと、歩くと、時々疲れちゃう(はい)。  
 Co<sub>12</sub> : 最近、ご飯とかは、ちゃんと食べれてる。

犬<sub>12</sub>：今までどおり。  
Co<sub>13</sub>：今までどおり。〈沈黙16秒〉  
犬<sub>13</sub>・Co<sub>14</sub>：〈笑い〉

事例Cの概要：

初心者同士のロールプレイングとしては比較的継続して演技が出来ており、事例A Bのような短いプロセスでの中断はないが、両者とも沈黙抵抗が生じ、カウンセラー役に笑い(Co<sub>10</sub>)が生じたところで中断する。中断後再開するが、前半同様沈黙抵抗が生じたために同じく笑いで中断する。初心者における沈黙(緊張)及び笑い(緊張緩和)による演技抵抗の典型例である。

②イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習過程・中半

本実習過程の中半は、ロールプレイングを2回～5回体験した段階である。この段階での生徒の感想について、表8にその特徴を示すタイトルとともに発言を分類して記載する。

中半の実習過程の特徴として、依然として前半の特徴である演技抵抗(表8-1, 4)を残すが、クライアント役への動機付けが高まり、カウンセラー役の受容不足への不満が増える傾向にあることを指摘できる。これは、クライアント役になじんできたことによりクライアント役演技を行うことに対して前半よりもより一層強く動機付けられるようになってきた(表8-5)反面、それと平行して、カウンセラー役の受容の難しさ(表8-2)をより強く感じられるようになってきたために、受容の仕方やレベルへの不満(表8-3)が増加してきたものと推察される。しかし、中にはカウンセラー役から適切に受容されて気分がすっきりし、理解されることの満足感を表明する生徒(表8-6)が現れだすのもこの段階での興味深い特徴である。

表8：イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習過程・中半における生徒の発言

1. 終了時間まで話が續かない。  
a. 話終了しちゃった。(女子)

- b. 終わってますねー。(男子)  
c. 終わっちゃった。(女子)  
d. 困りました。(女子)
2. カウンセラーとしての受容の難しさ  
a. カウンセラー役の対応が難しい。(女子)  
b. (受容困難のため投げやりになり)カウンセラーは、「はいはい」言ったらいいと思うから。(男子)  
c. どこが悩みかはっきりしない。(女子)
3. カウンセラー役を受容不足への不満  
a. カウンセラー役がべらべらしゃべってた。(男子)  
b. カウンセラーが分かってくれてるか気になる。(女子)  
c. 相談したいことが(カウンセラーの受容不足のため)伝えられない。(男子)
4. 役割演技への抵抗  
a. クライアント役が、役割を決めない。(男子, 女子)  
b. 緊張して熱くなりすぎた。(男子)  
c. タイトルを決める際に演じた役割について講師に説明し受容を求める。(女子)  
d. クライアント役で話が途中で詰まることある。講師にクライアント役を再現する。(女子)
5. 役割演技に動機付けられる  
a. もう一回やりなおしたい。(男子)  
b. 今度、匂いに悩む口をする。(男子)  
c. 次は臭い足に悩むイスをする。(女子)  
d. ペア代えていいですか。(女子)  
e. 異性は苦手。相手代えていいですか。(男子, 女子)
6. カウンセラーから受容されたことへの満足  
a. 分かってもらえたのでスッキリする。理解してもらえたことに満足してる。(女子)

次に表9, 10に示す事例D及びEは、この授業における実習の中半のロールプレイング事例である。その特徴は、上にも述べたように、クライアント役に動機付けられたためにカウンセラーに受容されないことによる不満が生じていることにある。

表9：事例D 受容されない不満を示す事例

まっすぐに進めないことに悩むクマの事例  
(カウンセラー役：Co, クライアント役：クマ)  
Co<sub>1</sub>：今日はどういったことで  
クマ<sub>1</sub>：えっと私はメリーゴーランドのクマなんですけど。っとメリーゴーランドって回ってるじゃないですか(はい)。私はまっすぐに進みたいんですよ(はいはいはい)。それは(不明)(はい)。  
Co<sub>2</sub>：それは、そのままいいんじゃないですか。  
クマ<sub>2</sub>：そうなんですけどー(不明)。  
〈周囲の実習の音声に紛れて聞き取れなくなる〉

事例Dの概要：

クライアント役が演じたメリーゴーランドのクマは、回ることが仕事であるという宿命にもかかわらず、まっすぐに進みたいと願うことから悩みが生じる。これをカウンセラーに相談するが、受容されず、あらたにカウンセラーへの不満を抱えることになる。

表10：事例E 受容されない不満を示す事例

かまってもらえないことに悩む犬の事例  
(Co：カウンセラー、犬：クライアント)

犬<sub>1</sub>：私は犬なんです。レストランで(うん)生まれたときは、値段が高かったんで、みんながちやほやしてくれたんなんですけど(うん)。売れなくて段々値段が安くなってって。餌もいいもの食べれなくて、誰もかまってもらえないんですよ(ええ、ええ)。最近、小学校の、は、でなくて(はあ)、帰ってくるまで全然気づかなくて(はあ)。かまってもらえなくなってしまったんですよ。それでー。

Co<sub>1</sub>：ええ、それは、まあ、犬なら仕方がないというのは、それは、ありますね、あの一、お店を、飼主は、お店に突撃、お店に突撃したらどうですか？

犬<sub>2</sub>：と、突撃ですか!?(看板に向かって)そうですか。でも、それって、何か、迷惑がかかるような感じがする。

Co<sub>2</sub>：かかってない。かかってるはずないじゃない。思い切って看板犬になるんだよ。

事例Eの概要：

クライアント役が演じた犬は飼主にかまってもらえないことで悩んでおり、そのことをカウンセラー役に訴えるが全く受容されず、却って前半にも増してカウンセラーへの不満を抱えてしまう。

③イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習過程・後半

前半及び前半同様に、実習過程後半、すなわち実習終了段階についても、生徒の発言(表11)に続いてロールプレイング事例2例(表12, 13)を提示しプロセスを検討する。

後半になると、イヌバラ法の独自の構造に由来する馴染みやすさも相まって、実習を楽しめるようになり(表11-2)、初歩的な受容技術が獲得され、話が続くようになる(表11-1)。

表11：イヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習過程・後半における生徒の発言

1. 話が続くようになる。
  - a. 最初は慣れなかったけど、最初はクライアントで話題をつなげるのが、難しかったけども、どんどんやっていくうちに、慣れて話をつなげられたし、カウンセリングしても結構アドバイスができたと思います。(女子)
2. 実習が楽しい。
  - a. 楽しそうでいいね。(女子)
  - b. 楽しいですね。えーと、途中ちょっと黙ったりもしたんだけど、大まかには(女子)
3. クライアント役の演じ方
  - a. クライアント役は、自分の悩みを代えてするのか(男子)。

事例F及びGはボランティアクラブでの実習後半においておこなわれたロールプレイング事例である。まず事例Fから紹介し検討する。

表12：事例F 適度なあいづちと主訴の理解が見られる事例

最後まで使わずに捨てられることに悩む消しゴムの事例  
(Co：カウンセラー、消しゴム：クライアント)

Co<sub>1</sub>：今日用の、今日は、どのようなご用件で。

消しゴム<sub>1</sub>：今日は、<沈黙4秒>(ん、ん)  
<沈黙3秒>ちょっと悩み事があったんですけど(はい)。

Co<sub>2</sub>：どのようなお悩みでしょうか。

消しゴム<sub>2</sub>：<沈黙5秒>  
私、実は(はい)消しゴムなんですけど(はい)。使い主さんが(はい)、最後まで使わずに、捨ててしまうんですよ。

Co<sub>3</sub>：うーん。なるほど、最後まで使わずに捨てられてしまうんですか。

消しゴム<sub>3</sub>：そうなんです。

Co<sub>4</sub>：それ、どれぐらい残ってる状態なんですかね。

消しゴム<sub>4</sub>：そうですね。4分の1カットぐらい。

Co<sub>5</sub>：4分の1(はい)ですか。あ、でも結構、物によっては、使われてる方ですけどね。大きさはどれぐらいですかね。

消しゴム<sub>5</sub>：うーん、長方形ぐらいになりますね。

Co<sub>6</sub>：長方形ですか。うーん。なるほど。  
<沈黙5秒>  
うーん。色はどんな色ですか。

消しゴム<sub>6</sub>：色は白なんですけど。

Co<sub>7</sub>：白ですか。うん。一般的なイメージでいいじゃないですか。よく消せそうで。

消しゴム<sub>7</sub>：消せそうなんですけど。使い主さんが、どんどん(はい)どんどん新しいのにしていく



んでー。  
 Co<sub>8</sub> : あーどんどん新しいのに変えてくんですか。結構浪費家な、人ですね。まあ、周りに物事においては、古いものには、あまり興味などを置かないっていう人々いらっしゃるんですけどねー(うん)。うん。最近ですと他にどんなもの買ってらっしゃいます？  
 消しゴム<sub>8</sub> : 最近、文具類をよく捨てている。  
 Co<sub>9</sub> : あー文具類ですかー。文具類っていうと、他にはシャーペンだとかっていうようなんですかね。それとも鉛筆か何か。  
 消しゴム<sub>9</sub> : 鉛筆とからー。  
 Co<sub>10</sub> : あ、なるほどー。〈沈黙6秒〉う、何か、最近になって買われたものは、な、ありますか。あ。お買いになられたものとか。  
 消しゴム<sub>10</sub> : そうですね。ノートとか。  
 Co<sub>11</sub> : あーノートとかも、やはり残り何ページか残ってる状態。  
 消しゴム<sub>11</sub> : そうですね。(新しいね) 新しい。  
 Co<sub>12</sub> : ふん。新しいものになってしまう。

事例Fの概要：

クライアント役が演じた消しゴムの使い主は、文具類などの持ち物を最後まで使わずに捨ててしまう傾向がある。現在1/4の大きさに縮小した消しゴムは、今まさに捨てられてしまう危機に直面し、わが身を深く憂慮している。これをカウンセラーに訴えたところ、的確なあいづちと適度なフィードバックで自らの主訴を理解され、受容される (Co<sub>3</sub>)。しかし、その後の展開では主訴に理解の焦点があたらず、話題が拡散しプロセスが深まらないままに終わる。

次に事例Gを示す。本例も事例Fと同様に、ボランティアクラブにおけるカウンセリング実習のロールプレイング事例である。カウンセラー役の適度なあいづちと主訴の理解によりプロセスの展開が見られるところに本例の特徴がある。

表13：事例G 適度なあいづちと主訴の理解及びプロセスの展開が見られる事例

休む暇がなく疲れることに悩む携帯電話の事例  
 (Co：カウンセラー、携帯：クライアント)  
 Co<sub>1</sub> : こんにちは。  
 携帯<sub>1</sub> : こんにちは。  
 Co<sub>2</sub> : 今日は、どういった悩みでしょうか。

携帯<sub>2</sub> : えっと、私は(はい)、携帯電話なんですけれど(はい)、なんかこの頃すごい携帯電話増えてきていると思うんですけど(はい)、それでー、私は高校生の(はい)高校2年生の(はい)女の子に使われてるんですけど(はい)、今の高校生は携帯を手放さないで(はあ)、休む暇がないんですよ(はい)。んで、なんか毎日すごい疲れてるんですよ(あー)。  
 Co<sub>3</sub> : 一日、どのぐらいその子は、電話とかメールしてるんですか？  
 携帯<sub>3</sub> : ほとんどメールなんですけど、とりあえず、朝起きるコールも(うん)携帯電話(うん)のコールで起きて(うん)、で、朝ずーっと、もう、準備しながらとかも(はい)、携帯は手放さない(あー)で、ずっと携帯電話持ってて、で、学校、行っても授業中、ほとんどずっとメールしてて、ほとんど一日中、結構鳴りっぱなしですね。  
 Co<sub>4</sub> : 授業中とかもですか？  
 携帯<sub>4</sub> : そうですね。  
 Co<sub>5</sub> : 電源を切ることは(は)、24時間1分もないですか。  
 携帯<sub>5</sub> : ないですね。(じゃあ)常に充電と(あー)、で。  
 Co<sub>6</sub> : じゃあーその、携帯電話さんは(はい)、えっと精神的な疲れですか、それとも、ずっと電池を消耗されることによる疲れ、どっちなんですか。  
 携帯<sub>6</sub> : 電池は、充電されれば、一応力がつくので(はい)、大丈夫なんですけど(はい)。精神的に使われてると、ずっと使われていると(あー)、ほんと気を抜けないので。  
 Co<sub>7</sub> : そうですね。でも、使われることに対する喜びは、ある程度はあるん？  
 携帯<sub>7</sub> : も、ありますね。一応、必要とされてるっていうことなん(はい)で(はい)、でーも、他の携帯電話とかでも、生涯の間、本当、使われなかったり(ふーん)、するんで、使われて必要とされてるっていうことは、いいんですけど。んー。  
 Co<sub>8</sub> : 過度に必要にされすぎ(そうですね)だよ。うーん。なる、ほど。周りの、その女子高生の人が持ってる、えっと、その友達が持ってる携帯電話の人とかってお話しは、されますか。  
 携帯<sub>8</sub> : そうですねー。  
 Co<sub>9</sub> : そういうことを、言、言ったりしますか。使われすぎて、使われてるんだけどっていうことを。  
 携帯<sub>9</sub> : 言ったりしますねー。  
 Co<sub>10</sub> : そうすると何て返ってきますか？  
 携帯<sub>10</sub> : やっぱ、高校生のおうちだと、みんな登校してる(不明)が違うんでー、ここに帰ったとかっていうもので(うん)、結構、グチ。になったりとか、するんですけど(うん)。結構、まだ、あの、きょうだいかかいて(うん)、下の子たちがもっている、使ってる携帯電話っていうのは(うん)、んと、学校では使えないし(うん)、家とかでも、ずっとトレイの中で(うん)(不明)、結構、休憩できる時もある(うん)、結構、電池使われているから必要とも(あー)されてるし、結構ちょうどいいって話をきいてるんで(うん)。  
 Co<sub>11</sub> : でもー、携帯さんの場合は、それって、いろん

なところ、例えば、その携帯電話、その女の子が持って、学校に持って行って、で、その子の友達  
の携帯さんとかと一、いろいろ、お互い、めいめ  
い打ち明けたりすることで、多少楽になったり  
はしないですか？

携帯<sub>11</sub>：そうですね。話せるんでー(うん)、それで一  
人だと、ちょっと駄目ですね。周りが同じ状況に  
あったりすること(うん)で(うん)(不明)大丈夫  
です。

Co<sub>12</sub>：なるほど。電話とメール、どっちが使われるん  
ですか、使われすぎる。

携帯<sub>12</sub>：メールですかね。結構、打たれたりとか(う  
ん)、結構カバカバされたりするんでー。

Co<sub>13</sub>：あーやっぱり、しんどいのか<笑い>。そのた  
んびに電気つけたり、消したり(そうなんです)  
しなくっちゃいけないですもんねー。

#### 事例Gの概要：

後半の特徴は、適度なあいづちと主訴の理  
解とその受容にある。また逐語録の長さも前  
半・中半に比してかなり長くなっていること  
からも理解できるように、前半・中半には観  
察されなかったカウンセリングプロセスが展  
開されていることが指摘できる。言わば、イ  
ヌバラ法によるカウンセリング技術訓練実習  
効果が十分に認められる事例と言えよう。本  
事例については、事例の概要とともにそのプ  
ロセス分析もあわせて示すことで、より後半  
の特徴を明示したいと思う。

クライアント役が演じた携帯電話は、24時  
間休みなく働き続けていることによる精神的  
消耗をカウンセラーに訴える。そしてカウ  
ンセラーから十分とは言えないが、時に適度な  
あいづちや明確化がなされ、さらに不正確と  
はいえ、共感(Co<sub>8</sub>)されることによって、疲  
れにまつわる話題が展開されている。

#### 事例Gのプロセス分析：

##### 段階1 (あいづちによる主訴の受容)；

この事例においては、受容技法の中でも傾  
聴技法の「あいづち」がしっかりと使われて  
いる。携帯<sub>2</sub>で主訴を訴えているが、それに対  
してあいづちで応じており、Co<sub>3</sub>では主訴の  
フィードバックもなしに質問によるワイルド  
な明確化をおこなっている。しかしながら主  
訴の理解を踏まえた質問になっているため、  
クライアントの文脈を阻害するには至らない。

##### 段階2 (質問による明確化)；

Co<sub>4</sub>「授業中とかもですか」、Co<sub>5</sub>「24時間1  
分もないですか」とクライアントの疲れをよ  
り強調する質問によって、受容的に確認して  
いる。質問を多用し、共感不足の印象は否め  
ないが、あいづちがしっかりと打たれている  
ために、クライアントがスムーズに話を進め  
ている。

Co<sub>6</sub>ではワイルドであるが、精神的な疲れ  
と電池の消耗による疲れのいずれかを問う質  
問によって携帯電話の疲労感の根拠について  
確認をおこない、その悩みが精神的な消耗  
であることを明確にしている。このことによ  
って、精神的な消耗に由来することに焦点化  
されるプロセスの展開が見られる。

##### 段階3 (カウンセラー役の逆転移)；

Co<sub>7</sub>「でも使われることに対して喜びは、あ  
る程度あるん？」と文脈にそぐわない発言を  
してカウンセラー役自ら話題を変えて、プロ  
セスを主導したり、またCo<sub>11</sub>では「お互い、  
めいめい打ち明けたりすることで、多少楽  
になったりはしないですか？」と発言してク  
ライアントを慰めたりするなど、展開の深ま  
りから逃避するカウンセラー側の逆転移がみ  
られる。

##### 段階4 (共感的応答への試み)；

しかしながら、携帯<sub>7</sub>のクライアントの応答  
を受けて、Co<sub>8</sub>「過度に必要にされすぎだよ  
ね」とフィードバックすることによって、ま  
たCo<sub>13</sub>「あーやっぱり、しんどいのか」とワ  
イルドな表現であるがさらに共感を試み、携  
帯電話の主訴である疲労感を理解し受容する  
ための軌道修正をはかっている。

#### 事例Gのまとめ：

本事例では、カウンセラー役が傾聴技法と  
してのあいづちを獲得していること、また、  
不十分ではあるが共感的技法についてもその  
芽生えが垣間見られる点に訓練効果の一端を  
見出すことができる。

最後に、本実習過程の特徴は、前半が演技  
抵抗、後半が演技動機への高まりと受容不足  
への不満、そして後半が適度なあいづちと主  
訴の理解にあるといえよう。

**結果3とその考察** 実習後のアンケート及びヒアリング

実習後におこなった、生徒・教諭・スタッフへのアンケート、及び生徒へのヒアリングについての結果を順に提示する。

①アンケート結果

生徒及び担当教諭に、今回体験したイヌバラ法実習の感想について尋ねた。生徒へのアンケート結果は表14・15・16に、担当教諭のアンケート結果は表17に示す。さらに、それぞれの具体的内容についても報告する。

**表14：生徒へのアンケートⅠ：実習の楽しさの程度に関する項目**

項目	①とても楽しかった	②楽しかった	③普通	④つまらなかった	⑤何とも思わない	⑥その他
人数 (%)	25 (36.2)	40 (58.0)	3 (4.3)	0 (0)	0 (0)	1 (1.4)

**表15：生徒へのアンケートⅡ：次回の実習への意欲に関する項目**

項目	①やりたい	②やりたくない	③どちらともいえない
人数 (%)	50 (72.5)	0 (0)	19 (27.5)

**表16：生徒へのアンケートⅢ：スペシャリスト授業に対する感想（自由記述）**

a. 実習過程を経て、できなかったことができるようになった。……………	7人
b. イヌバラ法がよかった。……………	5人
c. イヌバラ法が難しかった。……………	4人
d. 実習によってカウンセリングの理解ができた、理解が進んだ。……………	10人
e. 指導講師（スペシャリスト）が授業に来てよかった。……………	12人
f. 実習が楽しかった。……………	8人
g. もっとやりたい……………	2人
h. その他……………	5人

**表17：担当教諭及び実習助手へのアンケート（自由記述）**

	イヌバラ法を導入した授業についての感想
A教諭	お忙しい中、講師の先生に来ていただきまして私自身とても勉強になりました。カウンセリングについて生徒も何も知らない状態であったので、導入がとてもむずかしいなあと思っていましたが、専門家の講師の方の導入方法が実に自然で、生徒もすんなり実習を行っていた様に思えます。また、回を重ねて行うことで生徒の心により響くのではないかと実感しています。感想からも、生徒はとても楽しい時間であったとの声が多かったことから、授業の導入部分、興味を持ちながら、授業を受けることの重要性を認識させていただきました。
B教諭	傾聴、共感、受容について、とてもわかりやすく、また楽しかったです。生徒も積極的に参加していて、良かったと思います。また、期日として、学校や福祉について慣れてきた、秋・冬ごろでも良いと思いました。
C実習助手	難しい教科書を使っただけの授業ではなく、生徒自身が役になりきって会話をしながらの学習だったので、とても楽しみながら授業を受けているように感じました。「傾聴・共感・受容」というのは介護士にとってとても重要なことだしそれを楽しみながら体験しながら習得できるのは生徒にとってとてもよいことだと思います。1度だけでなく、今後の授業でも取り入れていただければと思います。個人的にもカウンセリングにとっても興味があります。
D実習助手	今回初めてカウンセリング講座に参加させて頂き、とても勉強になりました。介護現場で働くうえで、相手のことをいかに傾聴、共感、受容し、ありのままのお年寄りを受け入れることを常に念頭に働いてきました。そして、カウンセリング講座に参加することにより改めて、共感・受容という言葉の重みを認識することができました。学生の頃の、教科書上で受容など勉強しましたが、違った角度から学ぶことができ、本当に良かったです。それに、楽しみながら学ぶことができ文字だけで「受容」とみるより、イヌバラ法実習を行うことで、「受容」という意味が何なのか具体的に分かって、分かりやすかったです。

イヌバラ法を導入した授業について、94.2% (表14)の生徒が楽しかったという感想をもっており、とても楽しかったと答えた生徒、及び楽しかったと答えた生徒の両者ともに、人間以外の役割を演じる「イヌバラ法（人間以外の役割を演じること）が楽しかった」、「友達と会話が

はずんだ」,「体験的にコミュニケーション学習できた」ことを理由にあげている。つまりイヌバラ法導入によりイヌバラ法の独自の構造による面白さに加えて、生徒同士のコミュニケーションが深まり、さらには学習効果があると感じる生徒の存在が明らかになった。

また、次回イヌバラ法をやってみたいかどうかの質問項目で72.5% (表15) の生徒がやりたいと回答しているが、その理由として「カウンセラー役、クライアント役を通して今回できなかったことが次回できるようになりたい」との課題意識をもったこと、「楽しかった」こと、「クライアント役の悩みやカウンセラーの対応の仕方を理解できた」こと、「今回の相手以外の人とも実習したい」ことなどを理由にカウンセリング実習に主体的に動機付けられている点があげられる。つまりイヌバラ法導入により受容技術あるいはコミュニケーションについての課題意識、楽しさ、コミュニケーション理解、他者へのコミュニケーション意欲を与え、主体的な学習意欲を高めることが明らかになった。

一方、どちらともいえないと答えた27.5% (表15) の生徒は、その理由として「難しかった」、「楽しいと思ったけど意味がわからない」などの感想を挙げており、具体的には、カウンセラー役になったときにクライアントの悩みに対してどのような言葉でフィードバックしたらよいかわからない、共感が大変などのカウンセラー役における受容技法の難しさや、クライアント役になりきるのが難しいといった役割演技の難しさが実習を継続して学習する際の抵抗となっている。

今回の授業の感想を自由記述した項目(表16)では、a.「実習過程を経て、できなかったことができるようになった」と7名が答えているが、具体的には「最初かなり笑っちゃって、やりにくかったけど、だんだん、普通にできるようになって楽しかった」、「カウンセラー役は大変だったけど、最後の方は話が聞けるようになってよかった」、「2回、3回とやっていくうちになれてきて、内容も細かい説明ができるようになって、相手に自分の伝えたい事をしっかりと言えるようになってきて、スムーズに会話をす

ることができるようになってよかった」等と記述している。これは実習のプロセスが展開するに伴ってクライアント役になりきることができ、受容技術を習得できるようになったことを示唆するものと言えよう。

b.「イヌバラ法がよかった」と5名が答えているが、「初めイヌバラ法の説明を受けた時、人間じゃないから難しいだろうなあと思ったが、先生のデモ(デモンストレーション)を見て、面白そうだと思って不安より楽しみになった」、「イヌバラ法で、相手の気持ちを理解できるようになれそうだと感じました」等としている。

一方、c.「イヌバラ法が難しかった」とする生徒も4名おり、「イヌバラ法で人間以外のものになりきるのが難しく(難しくて)うまく言えず、相手の方にうまく伝えられなかった」、「カウンセラー側も悩んでいる側もなりきるのが難しかった」、「相手の言いたいことは分かって、どうしたらいいかわからないことが多かった」と記述しており、クライアント役における役割演技にまつわる抵抗や、カウンセラー役における受容技法の難しさを挙げている。

さらに、d.「実習によって理解ができた、理解が進んだ」と答えた生徒は10名おり、具体的には、実習で受容を学び、自分の実生活でも生かしたいという生徒、(受容技術が)将来においても欠かせないことだという生徒等があり、今回の実習によって介護においても受容技術が必要で重要であるとの認識に目ざめたと言えるだろう。

また、専門家(臨床心理士)が授業を行ったことも生徒に刺激を与えている。福祉、心理と普段は分野を異にするが、連携して一つの授業を行うことができたことにとても意義があったと思われる。

担当教諭の感想からもイヌバラ法によって生徒が楽しみながら体験的に学習できること、受容について具体的に理解できることがさらに確認できた。

## ②ヒアリング結果

今回のイヌバラ法実習を経験した生徒のうち、無作為抽出した3名に対して特別養護老人ホー

ムでの見学実習時の入所者との交流においてイヌバラ法実習が役立ったか否かについてヒアリング調査を行った。

イヌバラ法によるカウンセリング実習後、実習に参加した一部の生徒が特別養護老人ホームで見学実習を行った。実習1ヶ月後(X年7月)に見学実習を行った女子生徒1名、及び3ヵ月後(X年9月)に見学実習を行った女子生徒2名にヒアリングしたところ「お年寄りの話を一生懸命聴いたら、良く話してくれた」ことを教諭に報告した。教諭が確認したところ、それらの生徒はカウンセリング実習の授業が役に立ったと話している。

つまり、それらの生徒は介護福祉の実践場面において、カウンセリング実習で獲得した受容技法を用いて高齢者とのコミュニケーションを図っており、実際に高齢者との会話が促進されたと言う。これは、イヌバラ法によるカウンセリング技法訓練実習の成果を実践に活かした事例であると同時に本実習の効果を示す一例であると言える。

#### IV まとめ

イヌバラ法による福祉科高校生に対するカウンセリング技術訓練実習の方法と進め方を提示した。また、その訓練過程から、以下の点が明らかになった。

イヌバラ法を導入することにより高校生は、

1. コミュニケーション技術としての受容技術の獲得学習へとより動機づけられた。
2. 受容されることの意義及び受容の技術について体験的に理解することができた。
3. 訓練中に初歩的な受容技術を獲得し、それを適用することができるようになった。
4. 獲得した受容の技術を実際に高齢者とのコミュニケーションに用いて成果をあげることができた。

このことから、イヌバラ法は高校福祉科介護実習における高校生のコミュニケーション技術の獲得と向上に資することが明らかになった。

#### 文 献

- 一番ヶ瀬康子, 荏原順子ら (2003) 基礎介護. 一橋出版
- 遠藤清江 (2000) 社会福祉援助技術現場実習における介護福祉援助の学習方法—特別養護老人ホームでのロールプレイ (介護技術) を取り入れた実習展開. 東北福祉大学研究紀要第25巻: 101—115
- 橋本久子 (2003) 介護技術演習. ナカニシヤ出版
- 今泉綾子・秋竹純 (2003) 介護技術「コミュニケーション」授業方法の一考察. 福岡歯科大学・福岡医療短期大学紀要第30号: 1—7
- 厚生労働省 (1999) 福祉専門職の教育課程等に関する検討会報告書
- 水野良也 (1989) 介護における心理的援助. 岡本民夫・久垣マサ子・奥田いさよ編: 介護概論. 川島書店: 107—123
- 水谷成子 (2000) 介護福祉士養成校生のロールプレイング技法の評価. 総合ケア第10巻, 第12号. 医歯薬出版株式会社: 59—63
- 文部省 (2000) 高等学校学習指導要領解説 福祉編. 実務出版
- 大辻隆夫 (1993) ロールプレイングによるカウンセラーの基礎訓練—訓練法としてのイヌバラ法の紹介の試み—. 児童学研究第23号: 32—49
- 大辻隆夫 (2000) イヌバラ法の訓練指標. 児童学研究第30号: 12—24
- 大辻隆夫 (2002) 子どもの心を育てよう. 京都女子大学入学センター
- 大辻隆夫・塩川真理他 (2003 a) 栄養カウンセリングの現状と課題. 児童学研究第33号: 24—33
- 大辻隆夫・上川貴子 (2003 b) 高齢者虐待に対する介護福祉的アプローチとその課題. 児童学研究第33号: 60—68
- 大辻隆夫 (2004) 人間関係をベースに展開される介護. 大橋謙策監修, 保住芳美編: 基礎介護指導書. 中央法規出版社: 40—45
- 杉本百合香 (2002) 介護現場で求められるコミュニケーション能力. 一宮女子短期大学研究報告, 第41号: 45—56
- 杉山せつこ (2000) 介護に必要なコミュニケーション. 津久井十編著: 介護福祉士選集・15介護技術. 建帛社: 1—16
- 高金快枝・伊集院朋子 (2000) 「介護実習」でのコミュニケーション技法の習得に関する一考察. 帝京平成短期大学紀要第10号: 41—46
- 高崎絹子 (1999) コミュニケーションの概念と介護. 高崎絹子編著: 最新介護福祉全書第15巻 介護技術. メヂカルフレンド社
- 山崎健治 (2002) 介護福祉士教育の課題. 松本短期大学紀要, 11号: 61—71